

## 卵巣がん 遺伝するがん？ 予防はできるの？



徳島大学  
産科婦人科学教室 助教

阿部 彰子氏  
あべ あきこ

最近、遺伝するがんがあることが知られるようになってきました。その中でも、卵巣がんの約15%は、親から子に遺伝することのある遺伝性のがん(多くはHBOC・遺伝性乳がん卵巣がん症候群)であることがわかってきました。HBOCであれば卵巣がんになる可能性が8〜60倍高くなります。しかし、生まれつきの体質が分かっても、残念ながら現在、卵巣がんを検診で早期発見することはできません。また、卵巣は骨盤の奥深くにあり、女性の体の構造上、数cmの卵巣腫瘍ができて症状がないことがほとんどです。一般的に卵巣がんのリスクを増やさないためには、ピルの服用や禁煙、バランスのよい食事、適正な体型維持、運動が効果的と言われています。さらに今後は、リスク低減のための卵巣卵管切除手術が、日本でも保険診療として実施可能となる見込みです(実施施設は限られる可能性がありますが)。医療も日進月歩です。ご質問がありましたら、遠慮なくご相談ください。



徳島大学病院がん相談支援センター  
がんの相談はこちらへ 相談窓口 Tel.088-633-9438

がん診療連携センター  
<http://www.tokudai-ganrenkei.jp>



徳島がん対策センター  
<http://www.toku-gantaisaku.jp>